

# 令和3年度 事業報告書

## I 概要

「高岡市総合計画第3次基本計画」では、「豊かな自然と歴史・文化につつまれ、人と人がつながる『市民創造都市』高岡」というまちの将来像に向け、「歴史・文化」分野において、めざすまちの姿を「暮らしの中に万葉と前田家ゆかりの文化が息づいている」まちとして掲げている。

これを踏まえ事業団では、地域に根ざした創造的な芸術・文化活動の育成に向け取り組みとともに、各文化施設等が市民に有効に活用されるよう、事業団独自のノウハウやネットワークを活かし、利用者ニーズに沿った施設管理と事業展開に努め、高岡市の芸術・文化の振興に貢献する。

### ○ 文化施設等の適正な管理と利用の促進

令和3年度は、万葉歴史館・美術館・博物館・文化芸能館・ミュゼふくおかカメラ館・動物園の6施設の第4次指定管理協定期間（平成29年度～令和3年度）の5年目（最終年度）となり、各施設の管理運営を行った。藤子・F・不二雄ふるさとギャラリーについては、引き続き業務を受託した。

各文化施設等が利用者に安全・快適に施設を利用していただけるよう、施設管理に万全を期すとともに、利用者のニーズに沿った施設管理と事業展開に努めた。

なお、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、高岡市からの要請により全管理施設を8月18日（水）から臨時休館とした。従前の感染予防対策をより強化した上で、万葉歴史館・美術館・博物館・ミュゼふくおかカメラ館及び藤子・F・不二雄ふるさとギャラリーは9月13日（月）から、文化芸能館及び動物園は9月27日（月）から、それぞれ再開した。

## II 各施設の事業内容

### 1 事務局事業（文化振興事業）

4月・5月に北陸最大の音楽イベント「風と緑の楽都音楽祭」高岡公演を開催。初日の野村小学校ウインドアンサンブルによるオープニング・ファンファーレは新型コロナウイルス感染拡大の影響により中止となるも、「南欧の風」をテーマに高岡ゆかりの音楽家・山本有希子氏・森雅史氏らによるオペラ公演のほか佐渡建洋氏によるピアノリサイタルを生涯学習センターホールにて開催し、多くの来場者を魅了した。また4月に完成披露された勝興寺本堂を会場に、富山・石川県出身の演奏家による金管五重奏公演を含め全3公演を実施し音楽祭を盛り上げた。

6月には平成6年度より継続する未来へ繋ぐ舞台鑑賞事業「10才のファーストコンサート」を、前年度開催中止に伴い4年生・5年生の2学年全児童を対象に、高周波文化ホールにて3日間5公演を開催した。小学校長会及びオーケストラ・アンサンブル金沢の尽力のもとにホール収容率及び移動バス乗車率も50%以下にするなど感染対策を徹底し、本市が誇る教育普及事業として27・28回目を無事実施した。

7月・8月にはWing\*Wingシリーズ第1弾として県文化ホールネットワーク公演事業～とやま横断！DANCE×SUMMER×DANCE！～んまつーポス「キリギリスとアリ」ダンス公演を北アルプス文化センターと連携し開催した。地元共演者に高岡第一学園認定こども園第二幼稚園年長児を迎え、前日のダンスワークショップを経て本公演に登壇した。本

番日は保育士を目指す多くの学生や若いファミリー層を中心に満席となり、本作品のメッセージ性・創造性溢れるユニークで楽しいダンスの世界を堪能した。

9月に高岡特別公演「オーケストラ・アンサンブル金沢 with 川瀬賢太郎&服部百音」をオーケストラ・アンサンブル金沢との共催事業として開催した。川瀬賢太郎のダイナミックな指揮とヴァイオリニスト・服部百音の瑞々しく洗練された演奏、半年ぶりの壮大なオーケストラの響きが多くの人々に感動を与えた。

12月に教育普及事業としてミュージカル配信動画鑑賞「劇団四季〜こころの劇場」を開催した。新型コロナウイルス感染拡大を考慮し、市内各小学校で配信動画を鑑賞できるように調整し、多くの児童及び関係者が心躍るミュージカルを楽しんだ。

2月にWing\*Wing×RAKUGO!として「風間杜夫・独演会&トークショー」を開催した。演劇・ドラマ・映画・声優と幅広いジャンルで活躍する俳優・風間杜夫の落語とトークで多くの来場者を魅了した。

令和3年3月末の高岡市民会館条例廃止を受け、たかおかホールサポーターの会「パープル」（4月に改名）が北陸ゆかりの音楽家たちで構成する「リベルテ」とともに、8月に生涯学習センターホールにて「ありがとう、高岡市民会館」特別オペラ公演の準備を進めるも感染拡大により中止、来春に延期調整となった。また、文化施設等にてサロンコンサートを計6回開催した。

3年目を迎える高岡駅や御旅屋セリオなど「まちなか」に賑わいを創出する「ユニークベニューTAKAOKA プロジェクト」事業で、高岡駅周辺での「ユニークベニューTAKAOKA オンまちなかステージ」、駅周辺以外での「キャラバンコンサート」、県内で活躍するアーティストによる有料公演の「スペシャルコンサート」を計33回開催した。また、情報発信事業である文化情報誌「iku\*cha」は地元企業等からの協賛を得て夏・秋・冬・春号の4期分を発行し、鋭意PRを進めた。

新規事業である歴史・文化資産をステージに市民の芸術・文化パフォーマンス動画を制作する「どこでもステージ事業」として、洋舞・箏曲×勝興寺、民踊・民謡×金屋町、日舞×瑞龍寺・雨晴海岸（富山大学芸術文化学部企画）の3つの動画を制作し、YouTubeの文化創造都市高岡公式チャンネルで配信した。

前年度開催延期となった「第50回高岡市芸術祭」は、高岡市芸術文化団体協議会・高岡市美術作家連盟とともにテーマ「煌めき（きらめき）」を引き継ぎ開催した（期間：10月23日～11月14日）。特に、邦楽・洋楽合同特別公演はコロナ感染防止対策として、舞台公演と音楽公演の同日2公演制で開催し、盛況のうちに幕を閉じた。

また自主事業で、7月・8月に「夏のわくわくワークショップ」を計3回、11月から「おでかけ公演・講座」を計7講座、12月に「青少年わかば公演（第9回たのしい子どもおどりの会）」を開催した。

## 2 事務局事業（生涯学習事業）

市民の生涯学習及び交流の場を提供し、本市における生涯学習の振興を図るため、さまざまな事業を実施した。

生涯学習センター講座開設事業では、新型コロナウイルス感染症対策を徹底しながら、「前田家のまちづくりと町民文化」や「歴史都市・日本遺産『高岡』の魅力」をはじめとした多彩な自主講座や、県内の大学と連携して実施する専門的な講座、小中学生を対象とした能楽講座等を開催した。

リトルウイングにぎわい創出事業では、「SONGS LONG VACATION」を開催し、好評を博した。

### 3 万葉歴史館事業

万葉歴史館では、『万葉集』や越中万葉をテーマとした展示や学習講座等を開催し、「万葉のふるさと高岡」と『万葉集』の魅力为全国に向けて発信した。4月2日には、大伴家持が越中で見た世界を再現したプロジェクトマップで、越中万葉の世界を体感する「万葉体感エリア」、9月26日には、楽しみながら万葉集を学べる「万葉学習エリア」がリニューアルオープンした。令和2年度と令和3年度の2か年で実施していた展示室の改修事業が完了した。

展示機能では、企画展示は、前年度に引き続き「越中国と万葉集」を令和3年8月まで開催した。春の特別企画展「かたかご繚乱」では、大伴家持の歌に詠まれた「かたかご」を題材とした館蔵品を中心に、展示・紹介した。秋の特別企画展「万葉のふるさと 憧れの万葉故地へ」では、全国万葉故地サミット参加自治体を中心に、それぞれの万葉故地や関連施設等を紹介した。特別展示「万葉のふるさと高岡フォトコンテスト入賞作品展」では、「越中万葉の山と川」をテーマに募集した作品の中から入賞作を中心に展示した。

教育普及機能では、例年実施している高岡万葉セミナーは「万葉の受容」と題して開講を予定していたが、新型コロナウイルス感染症拡大の影響により中止となった。学習講座は、館長講座「『日めくり万葉集』を読む」・「万葉集をよむ」・「古代への招待」・「大伴家持とともに」と、出前講座の「はじめての万葉集」(会場 高岡市生涯学習センター)を前年度に引き続き開講した。臨地研修型の講座の第8回「越中万葉ウォーク」は勝興寺周辺を、「第6回歌枕を訪う」は奈良・信楽・東近江を、館長と研究員が講師となりめぐった。また、富山大学での研究員による万葉集に関する講義等を通して、学生に越中万葉への関心を抱かせ、より親しんでもらえるように取り組んだ。

調査・研究・情報収集機能では、万葉歴史館の研究の成果を紹介する『高岡市万葉歴史館紀要 第三十二号』を出版した。

観光・交流機能では、毎年春と秋の連休に開催している「万葉衣装体験」は、新型コロナウイルス感染症拡大の影響により中止となった。万葉への魅力向上を期して、来館者に対しては、親しみやすくボランティア「和草」(説明員)が、学校や団体客等に対しては、研究員自らが案内をした。

他館・地域等との協力では、万葉学習エリア 企画展スペースを会場とした企画展「越中国府・国分寺を掘る」等が実施され、当館の利用促進につなげた。

### 4 美術館事業

高岡市美術館は旧美術館の開館から数えて、今年で創立70周年を迎えた。これを記念して、今年度は「人生や日常のさまざまな場面で常にそばにある」というこれからの美術館像を示しながら、春夏秋冬を通じて当館のコレクションを大規模に紹介した。

4月から5月にかけては「高岡市美術館創立70周年記念 笑(ゑ)まふ〜ほっこりコレクション〜」を開催し、動植物や小さなもの、思わず笑みがこぼれるような心癒される作品にスポットをあてた。同時に、会場では勝興寺「平成の大修理」完工を記念し、重要文化財《勝興寺本 洛中洛外図屏風》(六曲一双)の特別陳列を行い、多くの来場者から好評を得た。企画展示室3では4月から6月にかけて「コレクションにみる高岡の金工・漆芸」を併催し、当館が所蔵する金工・漆芸の優品を紹介した。

5月から6月にかけては「日本工芸会富山支部60周年記念 第60回日本伝統工芸富山展」を、6月から7月にかけては「第27回高岡市民美術展」を開催した。いずれも昨年度は新型コロナウイルス感染症拡大の影響により中止となったため、2年ぶりの開催である。

7月から8月にかけては、「高岡市美術館創立70周年記念 70年のキセキ 人生に寄り添うコレクション」を開催。本展では「“あなた”の人生の様々な場面に寄り添ってくる作品がある」をテーマに、作品を観る人の一生をイメージした11章から構成し、近年一般公開の機会がなかったコレクションを数多く展示した。しかし、県内の新型コロナウイルス感染状況の悪化により、8月18日から県内の公立文化施設が臨時休館する運びとなり、展覧会は会期中で中止となった。

県下一斉の臨時休館措置に伴い、9月10日から開幕を予定していた「令和3年度国立美術館巡回展 国立西洋美術館コレクションによる 高岡で考える西洋美術—<ここ>とく遠く>が触れるとき」は、会期を9月14日から10月31日までに変更しての開催となった。本展では、国立西洋美術館のコレクション約110点と、高岡市美術館のコレクション約20点をあわせて展示し、歴史あるそれぞれのコレクションの意義、地域と美術の関係性をあらためて問い直すことを試みた。会期中には企画者によるスライドトークや、林忠正研究者による特別対談を開催し好評を得た。

11月には「第50回 高岡市芸術祭 高岡市美術作家連盟展」を開催した。昨年度は新型コロナウイルス感染拡大の影響により中止となったため、2年ぶりの開催となった。

12月から1月にかけては「第8回クリエイティブ・たかおか ～未来に輝く 高岡市児童生徒作品展～」を、2月には「富山大学芸術文化学部 大学院芸術文化学研究科 卒業・修了研究制作展-GEIBUN13」など、学校と美術館が連携し、市内の小学校から大学までの児童、生徒、学生らの作品を展覧した。

藤子・F・不二雄ふるさとギャラリーでは、まんが原画の展示を通じて、幅広い世代に藤子・F・不二雄先生のメッセージを伝え、先生の作品を身近に感じていただき、理解を深めた。

企画展示では、5周年記念原画展「ゲラゲラ笑える話」（第2期6月1日～8月29日、第3期8月31日～11月28日）を開催した。12月1日からは6周年企画「時間旅行～過去・未来～」を開催している。

## 5 博物館事業

展示事業としては、昨年度から継続して7月まで館蔵品展「昔の道具とくらし」を開催し、当館が収蔵する衣・食・住をはじめとした古い生活道具類「民具」に焦点をあて、それぞれの民具がもつ歴史や用途に加え、その時代を生きた人々の暮らしについて展示・紹介した（特集展示コーナーでは消防関係資料を展示）。

常設展「高岡ものがたり」（通年開催）では、高岡の歴史・民俗・伝統産業を分かりやすく紹介し、団体見学への展示解説等を行った。常設展の内「お宝コーナー」では、「旅する高岡」、「彰義隊（隊長渋沢成一郎）副長天野八郎獄中記『斃休録』」、「室崎琴月生誕130年・童謡『夕日』誕生100年記念展」、「加賀藩農政の基本史料「村御印」」を順次開催した。

また、7月末から開始した特別展「生誕150年記念 筏井竹の門展」では、近代高岡文芸の盟主で俳人・俳画家の筏井竹の門(1871～1925)の書簡や写真、俳句、俳画などの資料を展示し、生誕150年を迎える竹の門の世界を紹介した〔会期（7月31日～10月10日）を、新型コロナウイルス感染症拡大により臨時休館したため10月31日まで延長開催〕。

11月に開催した館蔵品展「仕切書にみる北前船交易 ～堀田家・八坂家文書から～」では、当館が所蔵する伏木の有力な廻船問屋・堀田家と八坂家の「仕切書」（北前船主と各地の問屋が商品を売買する際に発行された文書）を通じて、北前船交易の一端を紹介した。

2月に開催した館蔵品展「昔の道具とくらし」では、当館が収蔵する衣・食・住をはじめとした古い生活道具類「民具」に焦点をあて、それぞれの民具がもつ歴史や用途に

加え、その時代を生きた人々の暮らしについて展示・紹介した（特集展示コーナーでは「双六・見立番付」を展示。次年度7月まで開催予定）。

教育普及事業としては、外部講師による郷土学習講座（全3講中2講開催。1講は新型コロナウイルス感染症拡大により中止）、当館職員による特別展講演会（1回）、古文書講座（全6講中4講開催。2講は新型コロナウイルス感染症拡大により中止）などを開催した。また、呈茶の会「呈茶の会ー博物館の松聲庵で抹茶を楽しみませんかー」（春・秋）のほか、桜の開花時期にあわせた屋上開放イベント「古城公園展望台」を開催した。そのほか、講師・委員の派遣協力なども行った。

資料収集・保存活動では、高岡の歴史・民俗・伝統産業に関わる資料の収集・保存に努めた。

調査研究活動では、日ごろ博物館に寄贈される資料の調査・整理に取り組んだ。また、「産学官連携に基づいた地域資料継承支援事業」の一環で、高岡市伏木地区の古文書等歴史資料の調査研究活動を行った。加えて「高岡鋳物の製作用具及び製品」の重要有形民俗文化財指定にかかる当館所蔵の鋳物資料調査を行いながら、これまでに調査が終了した資料台帳の内容を精査し、当館収蔵資料情報のデジタル化を進め、958件の資料情報をネット公開した。

## 6 文化芸能館事業

13室の貸室があり、3階の能舞台では、能楽をはじめとする古典芸能に活用されている。

また、1・2階の研修室等では市民の学習・文化活動・芸能活動・各種会合等で利用されている。

新型コロナ感染拡大防止による、臨時休館（8月18日～9月26日）や利用者の活動自粛により、使用料収入が当初見込み額の6割となった。

## 7 ミュゼふくおかカメラ館事業

当館では、クラシックカメラの保存・活用並びに写真文化の振興・発展を図り、カメラ文化の知識と理解を深める生涯学習の拠点として事業を展開している。

企画写真展事業では、5月～7月は富山県出身の高崎勉が商品撮影の技術を駆使したアートフォトに加え、コロナ禍における心情の変化を表現したスナップフォトを展示し、時代の流れを表徴する開催となった。7月～10月は世界的な動物写真家 岩合光昭による「ねこづくし」を3シリーズの巡回作品群から見どころを凝縮し開催。タイトルに相応しい癒しの空間として人気を博し、歴代5位の来館者を迎えた。10月～12月は山岳写真家 岩橋崇至による国内各地の山々の雄大かつ美しい表情を大迫力の大型プリントを交えて開催、来館者を別世界へと誘った。12月～2月はハービー・山口×鳥飼祥恵（高岡市出身）が各々の視点でひとりのパラアスリートと向き合い、その美しい瞬きをとらえた作品を通して多くの感動を届けた。併せて富士フィルムフォトコンテスト入賞作品展及びXシリーズ写真展、後半は第68回ニッコールフォト写真展を開催した。3月～4月は県内外の小学生から一般までを対象とした公募展「ワンダーフォト写真展」と併せ、富山県写真家協会、富山県写真連盟会員作品等を一堂に展示。また富山県出身・粕谷千春による写真展を同時開催し、身近に気軽に写真の楽しさに触れることができる親しみある展覧会として定着している。

カメラコレクション展示事業では、前期「画面サイズとカメラ展」と題し、カメラ本体の大きさの移り変わりや35mmフィルムに代表される感光材料の歴史に着目し、ユーモアを交えて解りやすく紹介した。後期では「IJINとCAMERA展」と題し、カメラの歴史とその発展に貢献した偉人たちを軸に、当時発売されたカメラの軌跡や功績を視覚的にも楽しめる展示で開催中である。

資料整備事業では、カメラ整理ボランティアの協力のもと、収蔵資料の整理・データ化を継続して実施している。

また、新型コロナウイルスの影響による事業収入の減少を緩和するため「ねこづくし展」は会期を延長し、「岩橋崇至写真展」「パラアスリート写真展」「ニッコール写真展」「富士フィルム写真展」は年度全体で会期を調整し実施した。

## 8 古城公園動物園事業

動物園では飼育展示のほか、特別展、動物園だよりの発刊等の事業を実施した。

なお、ウサギやテンジクネズミ等の小動物に直接触れることができ、来園者から好評を得ている「ふれあい広場」の事業については、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため本年は中止とした。

レクリエーション施設としての機能はもとより、情操教育の場および環境保全への貢献のために、動物愛護の啓発や情報発信、園内での繁殖に努めた。

## Ⅲ 評議員会に関する事項

### 1 審議内容

- |              |                         |    |
|--------------|-------------------------|----|
| (1) 第20回評議員会 | 令和3年5月29日開催             |    |
| 報告第1号        | 令和2年度事業報告について           | 承認 |
| 議案第1号        | 令和2年度決算の承認について          | 可決 |
| (2) 第21回評議員会 | 令和3年7月12日開催(書面によるみなし決議) |    |
| 議案第2号        | 理事の選任について               | 可決 |
| (3) 第22回評議員会 | 令和4年3月30日開催(書面によるみなし決議) |    |
| 議案第3号        | 理事の選任について               | 可決 |
| 議案第4号        | 監事の選任について               | 可決 |

## Ⅳ 理事会に関する事項

### 1 審議内容

- |             |                          |    |
|-------------|--------------------------|----|
| (1) 第50回理事会 | 令和3年5月10日開催              |    |
| 議案第1号       | 令和2年度事業報告の承認について         | 可決 |
| 議案第2号       | 令和2年度決算の承認について           | 可決 |
| 議案第3号       | 第20回評議員会の招集について          | 可決 |
| 報告第1号       | 代表理事と専務理事の職務執行状況について     | 承認 |
| (2) 第51回理事会 | 令和3年7月12日開催(書面によるみなし決議)  |    |
| 議案第4号       | 第21回評議員会への議案提出について       | 可決 |
| (3) 第52回理事会 | 令和3年7月12日開催(書面によるみなし決議)  |    |
| 議案第5号       | 理事長(代表理事)の選定について         | 可決 |
| (4) 第53回理事会 | 令和3年12月23日開催(書面によるみなし決議) |    |
| 議案第6号       | 令和3年度補正予算(第1号)の承認について    | 可決 |

(5) 第54回理事会	令和4年3月29日開催	
議案第7号	令和4年度事業計画の承認について	可決
議案第8号	令和4年度予算の承認について	可決
議案第9号	第22回評議員会への議案提出について	可決
報告第2号	高岡市公の施設に係る指定管理者の決定について	承認
報告第3号	代表理事と専務理事の職務執行状況について	承認

## 2 理事、監事の異動状況

(1) 令和3年7月11日	理事	高橋 正樹	辞任
	理事長	高橋 正樹	辞任
(2) 令和3年7月12日	理事	角田 悠紀	就任(新)
	理事長	角田 悠紀	就任(新)

※理事の任期：令和4年5月定時評議員会の終結の時まで

(2) 令和4年3月31日	理事	鶴谷 俊幸	辞任
	監事	堂故 真二	辞任